

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	西東京市ひばりが丘 2-3-5
園名	西東京市立 ひばりが丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音～自分の好きな音に出会う～

<テーマの設定理由>

・保育の中で楽器遊びは行っているが、単に遊びことを目的にするのではなく、自分の好きな音を探す活動として設定した。

2. 活動スケジュール

・どうしたら自分の思うような音が出せるのかなど音のなり方や好きな音を探究することに夢中になれるように、また、今後も子どもが安心して探究活動を行えるような環境を保障し、思う存分行えるよう設定していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ミュージックパッド・グロッケン・木琴・鈴・タンバリン・段ボール箱・パーテーションを設定する。

※子どもたちが集中して遊びこめるようホール中央にパーテーションを設置し、安全に楽しめる環境を設定する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・職員は普段の生活と同じように行動し、子どもが探究活動を行うために、危険の無いように配慮した。音の出るものや楽器を手の届くところに置いておき、子どもが主体的に触れることが出来るようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・楽器単体で鳴らしていたところから、ひとりが複数の楽器を集め同時に鳴らすと他児も真似をして一緒に音を出す。一緒に音を鳴らすことでより盛り上がる様子が見られた。

・ミュージックパッドは最初の時点では音階順に並べていたが、子どもたちが順番を変えることで音の変化に気がつく。また、裏返すとどうなるかを試し、裏返しても音が出ることを体感していた。

・最初は、段ボールに誰も興味を示す様子がなかった。しかし、偶発的に段ボールに手が当たると音が出ることに気がつき、太鼓のように叩いてみる姿につながった。タンバリンと木琴を並べバチで叩き始めると他児も真似をして合奏が始まる。友だちと一緒に音を鳴らす楽しさを共有していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・その日の活動は、保育日誌に記録し、その日のうちに職員と子どもたちと振り返りを行う。設定環境の見直しや保育者の援助と声掛けをどこまで行うかを話し合うことで次の活動につなげる。

・安全面との兼ね合い、ずっと見守ることの難しさを感じたと同時に、普段の声掛けの多さを反省する。子どもたち独自の発想が生まれ、楽しむ様子を見て、主体的な活動を引き出すことが大切であると感じた。

・1歳児クラスであっても子ども同士で影響を受け合い、遊びが発展していくのだと感じた。